

永年勤続等職員表彰及び職員講話 次第

と き 令和5年4月11日(火) 午後1時
ところ 東八幡平病院 理学療法室

司式 野口 忠子
奏楽 更井 智子

開 会 (午後1時)

前 讃 聖	奏 美 歌 書	21の575番(球根の中には) ルカによる福音書 10章30-37節 ルカによる福音書 5章30-32節
講 祈	話 禱	日本基督教団七戸教会 牧師 野口 忠子
感謝状贈呈		10年から11年未満勤続職員 20年から21年未満勤続職員 30年以上 永年勤続職員 功績顕著表彰
讃 祝	美 歌 禱	312番
感謝の言葉 後		一般財団法人みちのく愛隣協会理事長 及 川 忠 人

閉 会 (午後2時)

一般財団法人みちのく愛隣協会

575

死・よみがえり・永遠の生命

球根の中には

In the bulb there is a flower
詞：Natalie Sleeth, 1930-

PROMISE
曲：Natalie Sleeth, 1930-

1 きゅうこん のなかには はなが ひめられ、
2 ちんも くはやが てうたに かえられ、
3 いのち のおわり はいのちのはじめ。

さなぎ のなかから いのちはばたく。
ふかい やみのなかよあけ ちかづく。
おそれ はしんこうに、死はふ っかつに、

さむい ふゆのなかはるは めざめる。
すぎさ ったときが みらいをひらく。
ついに かえられる えいえんのあさ。

1 球根の中には 花が秘められ、
さなぎの中から いのちはばたく。
寒い冬の中 春はめざめる。
その日、その時を ただ神が知る。

3 いのちの終わりは いのちの始め。
おそれは信仰に、死は復活に、
ついに変えられる 永遠の朝。
その日、その時を ただ神が知る。

2 沈黙はやがて 歌に変えられ、
深い闇の中 夜明け近づく。
過ぎ去った時が 未来を拓く。
その日、その時を ただ神が知る。

祈 禱

312

What a Friend we have in Jesus
Joseph Scriven, c. 1855

WHAT A FRIEND
Charles Crozat Converse, 1868

♩・88 い つくしみふ か き と もなるイエスは

つ みとがうれ い を とりさりたも う(お)

こ ころのなげ き を つ つまずのべ て

な だかはおろ さぬ おえるおもに を アーメン

箴言 18・24

1
 いくしみ深き 友なるイエスは、
 罪とが憂いを とり去りたもう。
 ころの嘆きを 包まず述べて、
 などは下さぬ、 負える重荷を。

2
 いくしみ深き 友なるイエスは、
 われらの弱きを 知りて憐む。
 悩みかなしみに 沈めるときも、
 祈りにこたえて 慰めたまわん。

3
 いくしみ深き 友なるイエスは、
 かわらぬ愛もて 導きたもう。
 世の友われらを 棄て去るときも、
 祈りにこたえて 労りたまわん。

新約聖書より

ルカによる福音書 10章30節-37節

イエスはお答えになった。「ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追いはぎに襲われた。追いはぎはその人の服をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、道の向こう側を通って行った。同じように、レビ人もその場所にやってくるが、その人を見ると、道の向こう側を通って行った。ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。そして、翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもつとかかったら、帰りがけに払います。』さて、あなたはこの三人の中で、

だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」律法の専門家は言った。「その人を助けた人です。」そこで、イエスは言われた。「行って、あなたも同じようにしなさい。」

ルカによる福音書 5章30節-32節

ファリサイ派の人々やその派の律法学者たちはつぶやいて、イエスの弟子たちに言った。「なぜ、あなたたちは、徴税人や罪人などと一緒飲んだり食べたりするのか。」イエスはお答えになった。「医者が必要とするのは、健康な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである。」

感謝状贈呈

感謝状贈呈

永年勤続表彰

1. 10年経過勤続 (10-11年未満)

被表彰者7名

No.	所属	職名	氏名	ふりがな	備考
1	病院	看護師長	長内 望	おさない のぞむ	
2	病院	主任看護師	工藤 弥生	くどう やよい	
3	病院	主任理学療法士	藤田 英里	ふじた えり	
4	病院	理学療法士	續橋 輝	つづきはし ひかり	
5	病院	作業療法科副科長	菅生理 絵	すごう りえ	
6	病院	副主任言語聴覚士	橋本 春美	はしもと はるみ	
7	病院	臨時運転技師兼業務員	太田代 勝士	おおたしろ かつし	

2. 20年経過勤続 (20-21年未満)

被表彰者4名

No.	所属	職名	氏名	ふりがな	備考
1	病院	看護師長	照井 夕工子	てるい たえこ	
2	病院	副主任看護師	山本 千文	やまもと ちふみ	
3	病院	介護福祉士	谷藤 由紀	たにふじ ゆき	
4	訪問	所長	佐々木 幸栄	ささき ゆきえ	

3. 永年勤続 (30年以上)

被表彰者2名

No.	所属	職名	氏名	ふりがな	備考
1	病院	歯科長	阿部 美智夫	あべ みちお	
2	病院	臨時臨床検査技師	吉田 英子	よしだ えいこ	

表彰状贈呈

功績顕著表彰

被表彰2グループ

No.	所属	グループ	職名	代表者氏名	備考
1	病院	退院後フォローアップ事業 プロジェクトチーム	チームリーダー	工藤直子	
1	老健	介護老人保健施設研究発表 チーム	発表者代表	黒澤聡子	

功績顕著職員被表彰者及びその功績等紹介

グループ構成員
退院後フォローアップ事業プロジェクトチーム (連携室) ◎工藤 直子、(看護部) 吉川 喜久江、吉田 睦美、(リハ部) 晴山 澄、 菅生 理絵、(事務部) 工藤 しのぶ、(栄養管理部) 石山 哲平
功績内容など
<p>「退院後フォローアップ事業プロジェクト」チームは、令和3年度から部門を横断するプロジェクトチームとして編成され活動してきました。</p> <p>令和4年度は、コロナ禍という厳しい環境の中において、年度内2回「なんとでらえん相談会」を開催するとともに、事業手順のマニュアル化や相談内容のブラッシュアップを図るなどの今後に繋げる取組みを行いました。</p> <p>このように、困難な状況下において、関係職員の協働による取組みは、当院の魅力アップ、利用者拡大に貢献するものであり、他の範とするにふさわしいものであります。</p>

グループ構成員

介護老人保健施設希望研究発表チーム

～ 希望新聞を通して図る交流 ～

(介護) ◎黒澤 聡子、佐々木 真理子、今野 誉子、村上千代枝、芦名澤 真維、
(看護) 遠藤 奈菜

功績内容など

岩手県介護老人保健施設協会主催の研究発表会において、以下の発表が優秀賞を受賞しました。
この取り組みに対し敬意を表するとともに、その功績を称えます。

(研究発表要旨)

新型コロナウイルスの感染拡大により面会の制限が設けられている中、東棟・南棟の交流も制限しているため、利用者同士の関わりもほとんどない。そのような中でも、家族や利用者に施設の日常を伝え、交流を図る一つ的手段として新聞掲示に取り組みましたので報告します。

期間中に6枚の新聞を作成し、半月毎に1枚ずつ掲示場所を変更し、それぞれの棟で見ることが出来るようにしました。新聞を掲示すると、早速、利用者も興味を示し、自分の写真や他利用者の写真を指差して話題にしていました。1枚の新聞に東棟・南棟両方の写真を掲載したため顔見知りの利用者を見つけ「みんな元気そうだ。」「会いたくても会えないから写真で見られて嬉しい。」「やっぱり見るものがあると楽しいよ。」など、お互いの様子を知り、利用者同士泣いたり笑ったりと交流が図られていました。また、玄関にも掲示することで、コロナ禍で疎遠になってしまった家族にも日頃の利用者の様子を伝える良い機会となりました。写真ではあるが久々に見る利用者の姿に足を止め、「元気そうで安心しました。」と話し、じっくり見ている様子や「他の家族にも見せたい。」との事で写真を撮る家族も見受けられました。

新聞を作成する際、車椅子の低い位置からでも見えやすいように横向きにしたり、文字の大きさや色を工夫したりすることで、目が見えにくく普段新聞やテレビから遠ざかっている方にも楽しんでいただけました。新聞からの情報を認識することで記憶を再生し、脳の活性化や利用者同士のコミュニケーションの促進にも繋がったと考えます。変化の少ない施設生活の中で、新聞は空いている時間を埋めやすい手軽な余暇活動にもなったと思われました。

更に面会制限で利用者の様子を直接見ることが出来ない家族に対し、スカイプ面会以外で感染対策を考慮しながら出来る「安心感」の提供や「情報公開」の取り組みの一つにもなったと考えます。また、今回の対象は来設している家族に限られていましたが、現在、来設出来ない家族にも日常生活を伝えられるように広報を作成し送付する活動を行っています。

今後の課題としては、利用者も家族の様子を知りたいという要望が聞かれたことから、写真や動画などで交流を図れるように検討していきたいと思えます。

感謝状贈呈

特別表彰名簿

(新型コロナウイルス感染症対策において最前線で対応された部門等)

<趣旨>

昨年12月中旬から本年2月までの間、新型コロナウイルス感染症の未曾有の大流行により病院及び老健施設内での集団感染（クラスター）の発生に際し、最前線で幾多の困難に立ち向かいながら感染防御の対応に当たられた医療・介護従事者の皆様をはじめ、これを支え、結束して入院患者や入所者の安心・安全に取り組まれた職員の皆様のご理解とご尽力に対しまして、深く感謝と敬意の意を表するものです。

被表彰者6部門

No.	所属	部門名	職名	代表者氏名	備考
1	病院	一般病棟	看護師長	双畑ひろみ	
2	病院	回復期リハビリ A病棟	看護師長	長内 望	
新型コロナウイルス感染症による集団感染発生に際し、最前線で感染防御に取り組まれ、入院患者の安心・安全にご尽力されました。そのご労苦を称え感謝の意を表します。					
3	病院	回復期リハビリ B病棟	看護師長	照井タエ子	
新型コロナウイルス感染症による集団感染発生に際し、結束して感染対策の支援に取り組まれ、入院患者の安心・安全にご尽力されました。そのご労苦を称え感謝の意を表します。					
4	病院	検査科	検査科長	佐藤 徹	
新型コロナウイルス感染症の大流行に際し、最前線で感染者の早期発見に努められるとともに、ウイルスの院内侵入防止にご尽力されました。そのご労苦を称え感謝の意を表します。					
5	病院	医事課	医事課長	阿部 勇一	
新型コロナウイルス感染症の大流行に際し、最前線で来院者の円滑な診療及び検査の誘導とともに、保健所との連携にご尽力されました。そのご労苦を称え感謝の意を表します。					
6	老健	療養部看護介護科	介護長	畠山美和子	
新型コロナウイルス感染症による集団感染発生に際し、最前線で感染防御に取り組まれ、入所者の安心・安全にご尽力されました。そのご労苦を称え感謝の意を表します。					